取組項目		市民の生命を守る救急体制の充実			
現状・課題		 新型コロナウイルス感染症患者(疑いを含む)の救急搬送・移送協力に必要となる感染防止資器材を納入し対応しているが、備蓄が不十分である。 当局管内の救急出場件数は5万2,048件で、平成20年以来12年ぶりに対前年比で減少(一昨年比5,885件減少)に転じたが、新型コロナウイルス感染症への救急対応は救急活動後の消毒作業等に相当の時間を要するため、救急需要が増加すると、真に必要な傷病者への対応の遅れが懸念される。 			
取組の内容		 ・感染防止資機材備蓄計画に基づき、救急隊等の感染防止資器材を整備する。 ・「まちかど救急ステーション事業」を推進し、登録施設数を増加させる。 ・救急車が到着するまでの間、市民の方々により応急手当が施され救命につながるよう、市民の方々に対して各種救命講習を実施するとともに、「救急安心センターおおさか・#7119」等を広く普及啓発し、限りある救急搬送資源を緊急性の高い事案に優先的に投入できるよう、予防救急事業を推進する。 ・祭礼時や年末年始等、救急需要が増加すると予測される時期に、あらかじめ臨時救急隊を増隊配置するほか、突発的に救急需要が増加した際には、直ちに臨時救急隊を編成する体制を構築し、救急要請に対して傷病者への対応が遅れないよう対策する。 			
スケジュール	前期 (~7月)	□ 令和3年度臨時救急隊編成計画の策定(4月) □ 必要な感染防止資器材の検討及び納入事務(4月~) □ 大学と連携し、GIS(地理情報システム)を用いた救急需要予測等を分析(4月~) □ 救急告示医療機関の個別訪問や医療機関との各種調整会議に出席し、円滑な救急搬送と受入れを協力依頼(4月~) □ 南海バス車内放送による「救急安心センターおおさか・#7119」の案内(4月~) □ 南海バス車内放送による熱中症対策の案内(6月~) □ 堺市歯科医師会の全会員へ「まちかど救急ステーション事業」の参画を案内(7月)			
	中期 (~11 月)	□ 泉北高速鉄道車内広告による「救急安心センターおおさか・#7119」の広報(9月) □ 祭礼時に臨時救急隊を編成(10月) □ 駅、ホテル、スポーツ関連施設等、不特定多数の方が利用する場所に個別訪問し「まちかど救急ステーション事業」の参画を案内(10月~)			
	後期 (~3月)	□ 年末年始に臨時救急隊を編成(1月)□ 感染防止資器材の納入(~2月)□ 市民に対する各種救命講習を3,000人以上に実施(3月)			
	次年度 以降	□ 感染防止資器材備蓄計画に基づく資器材の納入・備蓄(年度計画)			
進捗の状況	前期 (~7 月)	 □ 令和3年度臨時救急隊編成計画の策定(4月) □ 必要な感染防止資器材の検討及び納入事務(4月~) □ 大学と連携し、GIS(地理情報システム)を用いた救急需要予測等を分析(4月~) □ 救急告示医療機関の個別訪問や医療機関との各種調整会議に出席し、円滑な救急搬送と受入れを協力依頼(4月~) □ 南海バス車内放送による「救急安心センターおおさか・#7119」の案内(4月~) □ 南海バス車内放送による熱中症対策の案内(6月~8月) □ 堺市医師会の全会員へ「まちかど救急ステーション事業」の参画を案内(7月) 			

(様式4)

	中期(~11月)	□ 劇画家のさいとう・たかを氏とコラボレーションした泉北高速鉄道車内広告による「救急安心センターおおさか・#7119」の広報(9月) □ 駅、ホテル、スポーツ関連施設等、不特定多数の方が利用する場所に個別訪問し「まちかど救急ステーション事業」の参画を案内(8月~) □ 年末年始に臨時救急隊を編成(1月) □ 感染防止資器材の納入(~2月) □ 市民に対する各種救命講習を3,000人以上に実施(3月)				
	後期 (~3月)					
界市基本計画	該当する 施策	2-(2)かかりつけ医から高度医療までつながる地域医療体制の充実				
	寄与する KPI					
未来都市計画 場市SDG s	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 すべての人に健康と福祉を 3				
	寄与する KPI	_		目標値(2023 年度)		
	1 37 1			_		